

令和4年（2022年）7月7日

## 重粒子線治療の受け入れ対象を拡大します。

～大腸がん術後再発及び骨盤部の骨軟部腫瘍の治療開始～

### 【本件のポイント】

- 大腸がん術後再発及び骨盤部の骨軟部腫瘍の重粒子線治療が始まりました。  
本日、7月7日（木）から、これらの疾患についても、地域（院外）から紹介受付を開始しています。これらの治療は、手術不適用の場合、公的保険が適用になります。
- 回転ガントリー治療装置の調整進展により、治療対象疾患が徐々に増えてきています。今後も、鋭意調整を進め、対象疾患を増やしてまいります。



### 【概要】

山形大学医学部東日本重粒子センターでは、7月7日（木）から、**大腸がん術後再発及び骨盤部の骨軟部腫瘍**の重粒子線治療を開始いたしました。

大腸がん術後再発とは、大腸がん（直腸、S状結腸、下行結腸、横行結腸、上行結腸、盲腸のがん）の手術後に骨盤内に再発した場合のことで、切除不能の場合には、公的保険が適用になります。

また、骨軟部腫瘍は、骨、筋肉及び脂肪等にある腫瘍のことで、体のいたるところに発症します。山形大学では、これまで、頭頸部の治療が可能でしたが、今回は骨盤部のほか四肢も治療可能となりました。これにより骨軟部腫瘍で治療できない部位は、胸腹部のみとなります。

### 【治療対象疾患】

治療対象疾患は、次のとおりになりました。

今回新たに治療開始した症例 **大腸がん術後再発** **骨盤部・骨軟部腫瘍**

従前から治療している症例 **前立腺がん** **頭頸部腫瘍** **頭頸部・骨軟部腫瘍**

これらの疾患のうち、前立腺がんはすべて、前立腺がん以外では、手術不適用なものが公的医療保険の対象となり、高額療養費制度が適用されます。

### 【紹介・治療件数】

令和4年7月1日現在の紹介件数・治療件数は次のとおり。

疾患	紹介患者数	うち治療完了
前立腺がん	751	431
頭頸部腫瘍	3	1
骨盤部骨軟部腫瘍	1	0
計	755	432

### 【今後の治療開始予定の疾患】

胸腹部の骨軟部腫瘍、肝細胞がん（ $\geq 4\text{cm}$ ）、肝内胆管がん、転移性肝腫瘍、膵がん、子宮頸がん（腺がん）、腎がん、肺がん、転移性肺腫瘍、食道がん、胸腹部のリンパ節転移

お問い合わせ

山形大学医学部東日本重粒子センター事務室／矢口

TEL 023-628-5404 メール [yu-heavyion@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:yu-heavyion@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)

# 重粒子線治療の受け入れ対象を拡大します



- 拡大理由

回転ガントリーですべての角度から安全に重粒子線照射が可能  
なことが確認されたため

# 今回新たに受け入れを開始する疾患

- 骨盤部の骨軟部腫瘍
- 大腸がん術後局所再発
  - いずれも切除不能なものに限る
  - いずれも16回/4週間の治療
  - いずれも保険適用疾患で医療費の高額な自己負担はない（前立腺、頭頸部も同様）
- すでに受け入れ中の対象疾患
  - 前立腺がん
  - 頭頸部がん（既存治療が効きにくいタイプ）
- 今後の予定
  - 9月～10月を目処にすべての適応となるすべての対象疾患（呼吸により動くがん）に対象拡大（対象は6ページ）

# 骨盤部の骨軟部腫瘍

- 疾患例
  - 仙骨脊索腫
  - 骨盤部の骨肉腫、軟骨肉腫 など
- 患者数
  - 東北全体で年間数十例（いわゆる希少がん）
- 2016年から保険適用、切除できない場合、重粒子線が有効であることは医療者の間では認識されている

# 大腸がん術後局所再発

- 2018年に診断された患者数152254人＊
  - 男性86414人、女性65840人
- 多くが手術や内視鏡的治療で救われているが、5-10%程度が局所（元々がんがあった近傍、多くが骨盤内）に再発する
- 東北地方での対象患者数は年間数百名以上と考えられ、インパクトは大きい
- 今年から保険適用になったばかりで、まだ認知度は低く、周知をお願いしたい

＊ 全国がん罹患データ

# 秋から治療開始予定の疾患

## 呼吸性移動のあるがん

- 胸腹部の骨軟部腫瘍
- 肝細胞がん (≥4cm)、肝内胆管がん、転移性肝腫瘍
- 膵がん
- 子宮頸がん (腺がん)
- 腎がん
- 肺がん、転移性肺腫瘍
- 食道がん
- 胸腹部のリンパ節転移

注)  
アンダーラインは保険医療  
それ以外は先進医療